（３） 社会科教育研究会（小）

会　長　　小島　良友（東中筋小学校）
副会長　　山脇　克仁（中村南小学校）
事務局　　堀岡　知世（東中筋小学校）

１　研究主題

「子どもが興味をもって取り組む社会科授業の創造・地域の教材化」

２　研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和元年 ５月８日（水）	四万十市教育研究会組織総会 ○役員選出・研究主題設定・年間計画策定 第１回サークル連絡協議会	中村南小学校	10名参加
７月３１日（水）	第１回研修会 ◆　講師 川村　慎也　係長（生涯学習課） ◆　講話 川と共に生きるまち ◆　夏季フィールドワーク 四万十市内の史跡等を現地研修 （１）幡多郷土資料館 ・南仏上人座像、戦争展 （２）坂本遺跡・香山寺跡 （３）東中筋小学校石碑 ・柳行李 （４）中筋川 ・野中兼山の改修地点	同　左	９名参加
１０月１５日（火）	教材研究会 ○４年生教材研究 単元名　「昔から今へと続くまちづくり」 授業者　弘瀬　栄美　教諭（東中筋小学校）	東中筋小学校	７名参加
１１月１３日（水）	四万十市教育研究大会 （１）４年生研究授業 単元名　「昔から今へと続くまちづくり」 授業者　弘瀬　栄美　教諭（東中筋小学校） （２）研究協議 （３）年間の振り返り	東中筋小学校	８名参加

３　研究活動の概要

社会科教育研究会が小学校（部会）と中学校（部会）に分かれて５年目となるが、昨年度と同様、１０名による少数精鋭での研究活動となった。

担任を持たない管理職や社会科の授業を行わない低学年担任を除くと、１１月の研究大会で授業を公開できる者が極度に限定される。昨年度は社会科サークルで研究授業を行うことはできなかったが、今年は東中筋小学校４年生で、単元名「昔から今へと続くまちづくり」を東中筋地域の素材を活用した地域教材に差し替えた授業をして頂くことができた。

またその授業へ向け、地域の教材化を見越して、夏季休業中には「中筋川改修工事」に関連する箇所をめぐることができた。以下に、主に夏季研修会の概要と四万十市研究大会の概要を記すこととする。

◆ 夏季研修会（フィールドワーク）

〇四万十市内史跡を現地研修

社会科教育研究会は、例年「地域の教材化」を研究主題に掲げ取り組んできている。小学校の教員が地域の諸施設や史跡に出向き、講師の方から話を伺い、直接見聞し触れあうことで、各自の授業づくりに向けての情報収集の場として位置付けている。

今年度は、中筋川についての研究授業を行うことから、中筋川や四万十川を中心にフィールドワークを行った。現地研修では、郷土資料館の展示物や展示方法等から、川と共に生きてきた昔の人たちの生活の工夫や、苦労などを聞くことができた。また、坂本遺跡や東中筋小学校にある石碑を見ることを通して、中筋川を生かした暮らしについて知ることができた。そして、川についてだけではなく、郷土資料館で「わたしたちの町の戦争展」の展示会が行われており、四万十市と戦争について資料を見たり、お話を聞いたりすることができた。

４　令和元年度　四万十市教育研究大会

（１）　東中筋小学校４年生の社会科授業を参観した。

授業者　弘瀬　栄美教諭

単元名　「昔から今へと続くまちづくり」

（２）　授業者より

・子どもと一緒に地域について勉強することができた。
・グルーピングをこの単元で初めてやらせてみたが、児童は楽しんで主体的に取り組めていた。
・グルーピングをするときに、小さな枠でまとめることはできていたが、大きなまとまりでまとめられておらず、最後のまとめに少し時間がかかり、まとめも長くなってしまった。
・グループの中では話せても、全体発表で発言できていない児童がいた。

（３） 参観者より

・地域教材に置き換えることで、児童は最後まで興味をもって学習に取り組めていた。また、総合学習とのつながりも図れる。
・地域教材に置き換えたこの単元は、学校の財産になる。
・本流や水位など難しい言葉の理解が十分でなかった。
・四年生にとって付箋でまとめる作業は難しいと思ったが、友達と協力して短い時間でよくまとめることができていた。
・グルーピングをするときに、大きなまとまりでまとめられていなかったので「○つでまとめよう。」など条件を与えてもよかった。
・児童が主体的に学習できるような工夫があった。
・まとめは文章で書くのではなく、各項目でまとめていたので箇条書きで書かせてもよかった。

（４） 助言者より

・４年生は、大変意欲的に学習に取り組んでいた。１単元を地域教材とした今回の取り組みは、児童にとって身近な地域が教材化されており、興味関心を持ち続けることができていた。
・１６時間扱いの本単元のなかで、地域の発展に尽くした先人の苦労を具体的に学ぶことや、調査、見学、体験等の様々な活動を織り交ぜながら、座学のみに終わらず自分の目や耳で学習したものを、自分の言葉でまとめ表現し、伝えることができていたと思う。教材化したデーターや評価、資料等は東中筋小学校の財産となり、今後も活用しながら改善していってほしい。

５ 今年度の成果と課題

○今年度も研究主題にそって活動することができた。
○中筋川メインのフィールドワークは、授業とのつながりがみられてよかった。
○地域を教材化でき、児童も最後まで興味をもって学習できていてよかった。
○社会科の指導案検討や授業の参観をすることができてよかった。
●フィールドワークが中筋川メインとなり、他の学校でも活かせるようなフィールドワークを行えなかった。
●地域にはたくさんの教材があることは分かったが、それをどのように活かしていくかが明確でないので、それを各学校でどのように教材化したのかを考えられる機会があればいい。
●四万十川流域のことに関心のない児童も多いので、四万十市内のフィールドワークをもっと広げて、周囲の先生や児童に伝えていく必要がある。
●部会員を増やす努力をしていく必要がある。四万十市の規模で社会科の研究組織が存在しないというわけにはいかないという想いを大切にしたい。